

白内障、加齢黄斑変性

# 中高年の眼病 分かりやすく

「眼のアンチエイジング」

## 宇土市の眼科医出版

宇土市の「むらかみ眼 斑変性を中心に紹介。

科クリニック」院長で順 白内障の最新治療とし

天堂大客員准教授の村上 て、わずかに程度と従

茂樹さん(右)もが、中高年 来の六分の一ほど切開す

に多い目の病気を分かり れば済み、体への負担も

やすく解説した「白内障 少ないMICS(極小切

開法)などを、患者の体 験談も交えて解説。網膜

の中心部の障害で見えづ らくなる加齢黄斑変性

出身。順天堂大医学部を



村上茂樹医師

加齢黄斑変性(熊本

日日新聞社)を出版した。

「眼のアンチエイジング」

と銘打ったシリーズの第

一冊。

眼の仕組みや、加齢と

ともに水晶体が濁る白内

障、中高年に多い加齢黄

は、光線力学療法という 特殊なレーザー光治療で 視力低下を抑えられると いう。

さらに、紫外線や青紫

色光、喫煙、緑黄色野菜

の摂取不足など、眼の健

康に有害な危険因子を指

摘。生活習慣や食生活の

改善など、眼病の予防や

早期発見のアドバイスも

豊富に盛り込んだ。

村上さんは山口県萩市

出身。順天堂大医学部を

卒業後、一九九六年に宇 土市で開業。日本眼科学 会、日本東洋医学会、日 本抗加齢医学会の認定専 門医の資格を持つ。

成人後に視力が弱ま

り、矯正視力でも0.1

以下の著しい視力障害を

社会的失明という。村上

さんは「平均寿命が延び

る一方で、社会的失明は

増えている。患者さんを

眼病への不安から救いた

い」と話している。

四六判、二六八頁、千

二百六十円。書店や熊日

販売センター、熊日情報

文化センター ☎096

(361) 3274で取

り扱っている。

次回は、緑内障、糖尿

病網膜症を取り上げる予

定。

(高本文明)

